

1 事業の目的

消防訓練センター（戸塚区深谷町）は、昭和51年の供用開始から消防職団員の教育訓練の場として、人材育成の中心的な役割を担ってきましたが、訓練施設の老朽化が著しく、安全面で大きな課題を抱えているため、更新整備を実施します。

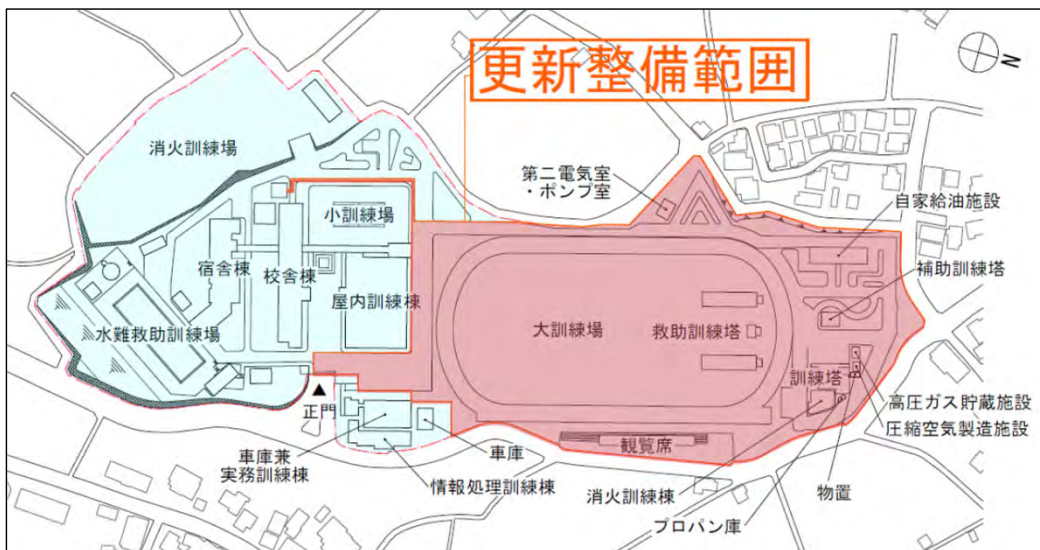
更新整備にあたっては、災害の大規模化や複雑多様化に的確に対応していくため、実際の災害を想定した実践的な訓練を行うことのできる施設を新たに導入し、消防職団員の災害対応力の向上を図ります。

2 事業内容

現在、訓練施設が配置されている消防訓練センターの敷地北側を更新整備します。

なお、敷地南側にある校舎棟などの消防学校庁舎は、引き続き使用します。

更新整備面積：24,900.00㎡ ■（敷地面積：48,919.52㎡） ■



3 基本方針

(1) 安全性が高く、各種災害に対応できる実践的な訓練施設

安全に訓練が実施でき、火災や救助、風水害、震災など実災害の現場と類似した状況を再現して訓練を行うことのできる実践的な訓練施設とします。

(2) 効率的・効果的な訓練施設

複合災害を想定した訓練が実施できる多機能な訓練施設とするとともに、多くの消防職団員が同時に訓練を実施することができる効率的・効果的な訓練施設とします。

(3) 様々な災害に柔軟に対応できる訓練施設

様々な災害想定や訓練を行う隊員の要望に応じて、レイアウト変更が可能な訓練施設とします。

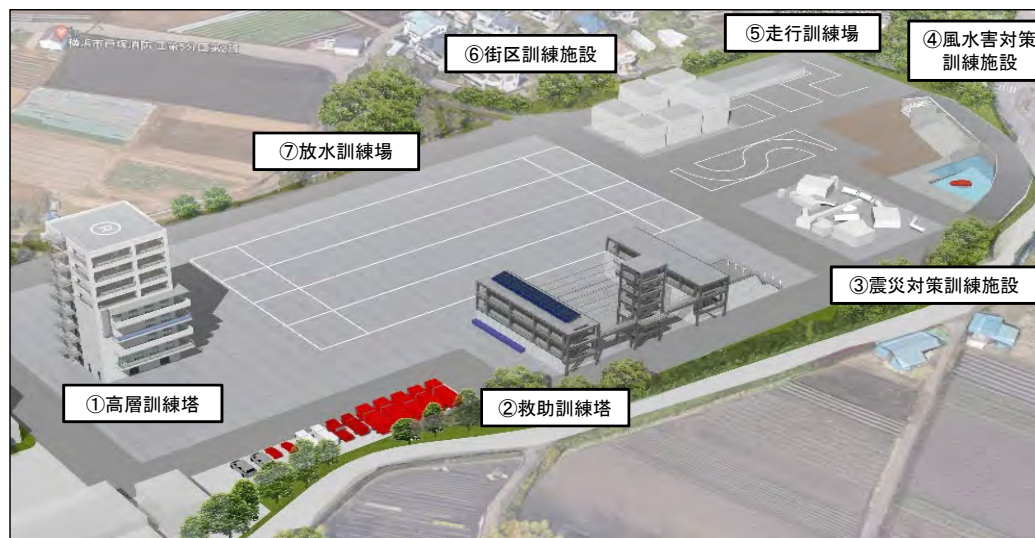
(4) 環境にやさしい訓練施設

太陽光パネルの設置など、環境に配慮するとともに、耐用年数やライフサイクルコストに配慮した訓練施設とします。

4 訓練施設の概要（詳細は裏面参照）

基本方針に基づき、①～⑦の訓練施設を更新整備します。

完成予想図（南東から）



5 事業スケジュール（予定）

令和6年度は、令和5年度に策定した基本設計を基に実施設計を策定し、令和7年度から令和9年度の3か年で工事を行い、令和10年度から新たな訓練施設の全面供用を開始する予定です。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
基本設計	↔					全面供用開始 (予定)
実施設計	建築関係	↔				
		解体関係	↔			
工事			↔			

① 高層訓練塔

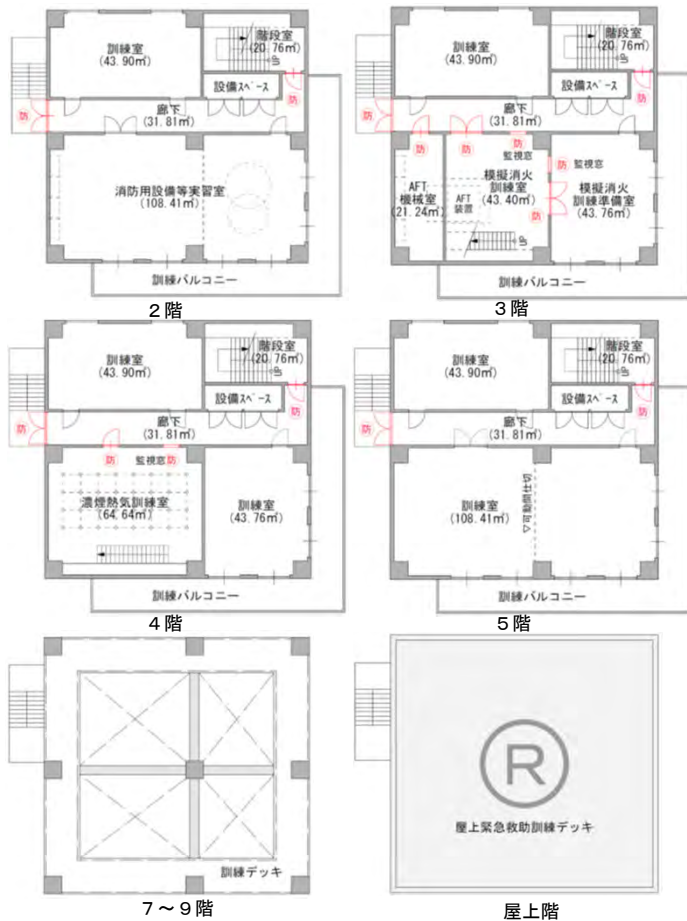
建築面積：241.69㎡ 延床面積：1,269.84㎡ 構造：鉄筋コンクリート造 高さ：31.8m

1～5階：訓練室部分 6～9階：屋上階：訓練デッキ部分

・主な訓練内容：【2階】消防用設備等習熟訓練、【3階】火災現場に近い環境を再現できる模擬消火訓練装置（AFT）を用いた消火・救助訓練、【4階】濃煙熱気下での人命検索訓練、【5階】レイアウト変更可能な訓練室での消火・救助訓練、【7～9階】はしご車による救助訓練、【屋上階】ヘリコプターによる救助訓練など
※1・6階はポンプ室や倉庫など



外観イメージ



模擬消火訓練装置（AFT）
参考：千葉県消防学校

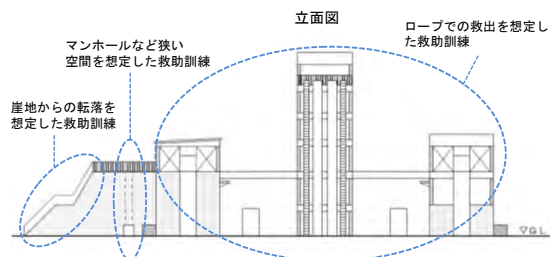
② 救助訓練塔

建築面積：482.63㎡ 延床面積：1,365.60㎡ 構造：鉄骨造+一部鉄筋コンクリート造 高さ：20.1m

・主な訓練内容：崖地からの転落を想定した救助訓練、マンホールなど狭い空間を想定した救助訓練、ロープでの救出を想定した救助訓練など



外観イメージ



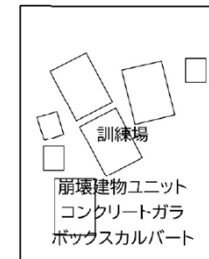
③ 震災対策訓練施設

面積：約800㎡

・主な訓練内容：倒壊建物を想定した重機などによる瓦礫排除訓練、生き埋めを想定した検索・救助訓練など



参考：千葉県消防学校



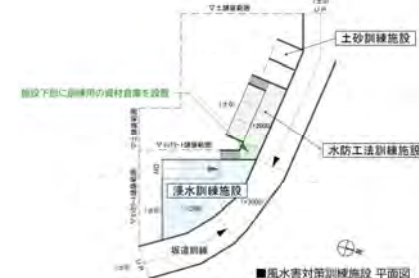
④ 風水害対策訓練施設

面積：約1,000㎡

・主な訓練内容：崖崩れや土砂崩れ、浸水を想定した救助訓練、川の堤防や法面を想定した土の積み訓練など



参考：千葉県消防学校



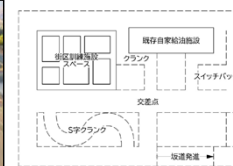
⑤ 走行訓練場

面積：約4,400㎡+その他敷地内通路

・主な訓練内容：消防車両走行訓練など



参考：広島県消防学校



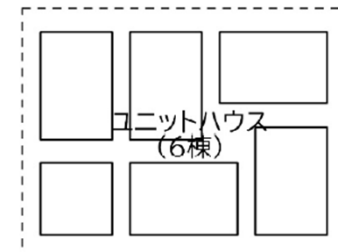
⑥ 街区訓練施設

面積：約1,000㎡

・主な訓練内容：6棟のユニットハウスを組み合わせたことにより、様々な火災に対する総合的な消火・救助訓練など



参考：千葉県消防学校



⑦ 放水訓練場

面積：約4,000㎡

・主な訓練内容：消防団員や自衛消防組織による操法訓練、大容量放水訓練など



参考：千葉県消防学校

